

ニッセイ インターネットアンケート

～4月：「女性の活躍推進」について～

日本生命保険相互会社(社長:筒井義信)は、「ずっともっとサービス」のサンクスマイルメニューのひとつとして、ホームページ(<http://www.nissay.co.jp>)内の「ご契約者さま専用サービス」にて、「女性の活躍推進」に関するアンケート調査を実施いたしました。

《調査概要》

- 調査期間：平成28年3月1日(火)～3月25日(金)
- 実施方法：インターネット(PC・携帯電話モバイルサイト)による回答
- 調査対象：「ずっともっとサービス」のサンクスマイルメニューアンケートへの訪問者
- 回答者数：17,934名(男性:9,331名、女性:8,603名)

<年代別回答者数>

[名]

年代	～20代	30代	40代	50代	60代	70代～	合計
男性	416	1,411	3,142	2,918	1,140	304	9,331
女性	614	1,555	2,858	2,373	935	268	8,603
合計	1,030	2,966	6,000	5,291	2,075	572	17,934
占率	5.7%	16.5%	33.5%	29.5%	11.6%	3.2%	100.0%

《調査結果のポイント》

ポイント①

質問1・2

「女性活躍推進法」の内容を理解している割合は約2割に止まっており、女性のほうが「理解している」割合は低い傾向。
一方、「女性活躍推進法」を理解している方の6割強は、法が女性の活躍を後押しすると回答。

ポイント②

質問3・4

7～8割の方が、日本経済の発展に「女性の活躍推進」が重要で、今後職場などで「進む」と回答。(昨年よりも増加)

ポイント③

質問8・11

管理職への登用を目指したいと「思う」割合は約26%に止まっているが、年齢が若くなるほど高い傾向。
また、20代以下では約8割が「正規雇用への転換(転職)」を希望。

ポイント④

質問12

女性の望ましい働き方として、「結婚後」と「出産後」を比較すると、「出産後」は「結婚後」よりも、「家庭重視」が大きく増加し、「仕事も家庭も重視」が大きく低下。

質問1 「女性活躍推進法」が平成28年4月1日に施行されましたが、内容を知っていますか？

(回答者数：17,934名)

- 「女性活躍推進法」について、「理解している」と回答した割合は21.3%に止まっている。
 ○また、女性のほうが「理解している」割合が低い傾向にある。

■男女・年代別の回答

[%]

	よく理解している	やや理解している	あまり理解していない	理解していない	どちらとも言えない
男性計	5.3	20.6	31.6	24.8	17.7
～20代	7.7	10.3	29.6	39.9	12.5
30代	4.3	14.8	32.1	31.2	17.6
40代	5.1	18.6	32.7	26.2	17.5
50代	5.9	24.1	30.7	21.0	18.3
60代以上	4.5	26.5	31.1	19.1	18.8
女性計	2.5	13.9	36.0	31.8	15.9
～20代	2.8	10.9	32.6	38.6	15.1
30代	2.2	10.0	36.1	36.7	15.0
40代	2.2	12.5	37.3	33.1	15.0
50代	2.6	16.4	36.2	27.8	17.1
60代以上	3.1	18.5	34.2	27.3	17.0
総計	3.9	17.4	33.7	28.2	16.8

21.3%

<質問1で「よく理解している」「やや理解している」と回答した方>

質問2 「女性活躍推進法」は、日本の女性活躍を後押しする内容になっていると思いますか？

(回答者数：3,815名)

- 「女性活躍推進法」の内容を「理解している」方のうち、女性活躍推進法が日本の女性活躍を後押しする内容になっていると「思う」割合は62.5%と、「思わない」割合の14.3%を大きく上回っている。

■男女・年代別の回答

[%]

	そう思う	やや思う	あまりそう思わない	そう思わない	どちらとも言えない(分からない)
男性計	19.1	47.1	8.6	3.3	21.8
～20代	41.3	30.7	4.0	5.3	18.7
30代	21.9	45.2	5.9	4.8	22.3
40代	18.0	45.8	9.8	4.3	22.0
50代	16.4	48.7	9.9	2.5	22.4
60代以上	20.8	50.1	6.5	1.8	20.8
女性計	14.8	41.2	14.3	4.1	25.6
～20代	19.0	39.3	13.1	1.2	27.4
30代	17.4	41.6	13.7	8.4	18.9
40代	14.0	38.8	16.7	3.3	27.1
50代	12.0	41.1	13.8	4.2	28.9
60代以上	17.8	45.6	12.0	3.1	21.6
総計	17.5	45.0	10.7	3.6	23.2

62.5%

14.3%

<ニッセイ基礎研究所 松浦民恵 主任研究員のコメント>



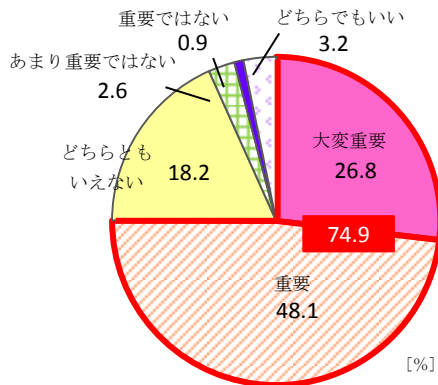
女性活躍推進法を理解している割合が、当事者である女性でも低くなっているのは問題。特に、女性の職業選択のための情報（301人以上の企業で公表義務化）は、現在働いていない女性も求職活動で有効活用できるはずです。

一方、女性活躍推進法を理解している方の6割強は、法が女性の活躍を後押しすると考えており、法に対する期待の高さがうかがえます。

質問3 日本経済の発展に「女性の活躍推進」は重要とご思いますか？（回答者数：17,934名）

○全体の74.9%が、日本経済の発展に「女性の活躍推進」が重要と回答。
 ○また、男女の全年代で、昨年よりも「（大変）重要」と回答した方が増加しており、全体で5.7ポイント増加。

■全年代



■年代別「大変重要・重要」と回答した方の割合

<昨年> [%]

	全年代	～20代	30代	40代	50代	60代～
男性	68.7	62.1	65.3	65.2	70.7	78.1
女性	69.8	70.7	66.8	66.9	72.9	73.5
合計	69.2					

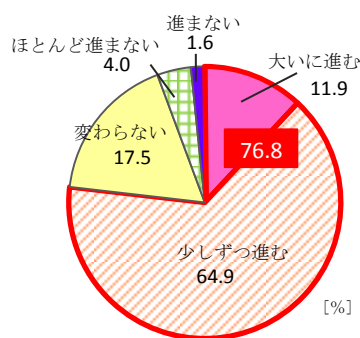
<今年> [%]

	全年代	～20代	30代	40代	50代	60代～
男性	74.7	70.0	70.5	71.9	77.3	81.1
女性	75.2	74.9	73.9	71.7	78.0	79.8
合計	74.9					
(対前年)	+5.7					

質問4 今後、職場などで女性の活躍が進むとご思いますか？（回答者数：17,934名）

○全体で76.8%が、今後職場などで女性活躍が「進む」と回答。
 ○また、男女のほぼ全年代で、昨年よりも「（大変）進む」と回答した方が増加しており、全体で2.2ポイント増加。

■全年代



■年代別「大いに(少しずつ)進む」と回答した方の割合

<昨年> [%]

	全年代	～20代	30代	40代	50代	60代～
男性	76.2	68.8	69.2	73.8	80.3	83.5
女性	72.9	76.6	65.9	68.3	78.5	79.8
合計	74.6					

<今年> [%]

	全年代	～20代	30代	40代	50代	60代～
男性	79.8	74.3	73.6	76.2	84.2	86.4
女性	73.6	73.6	68.5	69.1	77.8	82.7
合計	76.8					
(対前年)	+2.2					

<ニッセイ基礎研究所 松浦民恵 主任研究員のコメント>

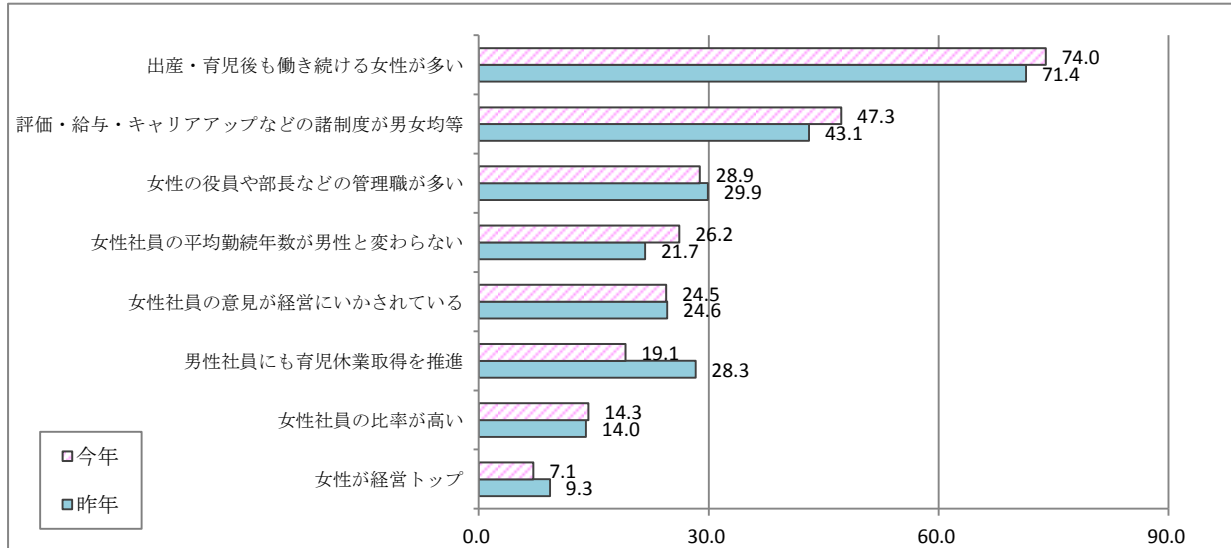
昨年も今年も、回答者の約7～8割が、日本経済の発展に「女性の活躍推進」が重要であり、今後、職場などで女性活躍が「進む」と回答しています。安倍総理が「成長戦略スピーチ」で、女性の活躍を政策的に一層推進していく決意を表明した2013年4月から、ほぼ丸3年が経過し、少なからぬ企業で働き方改革や管理職教育等、女性活躍推進の基盤となる取組が進められるなかで、女性活躍推進の必要性や本気度に対する評価がほぼ固まりつつあるようです。

質問5 「女性活躍推進」が進んでいる企業・団体のイメージは？ (回答者数：17,934名)

○昨年同様、「出産・育児後も働き続ける女性が多い」という方が7割を超え、圧倒的に多い。
次いで、「評価・給与・キャリアアップなどの諸制度が男女均等」「女性の役員や部長などの管理職が多い」が続く。

■全年代の回答 ※複数回答可

[%]

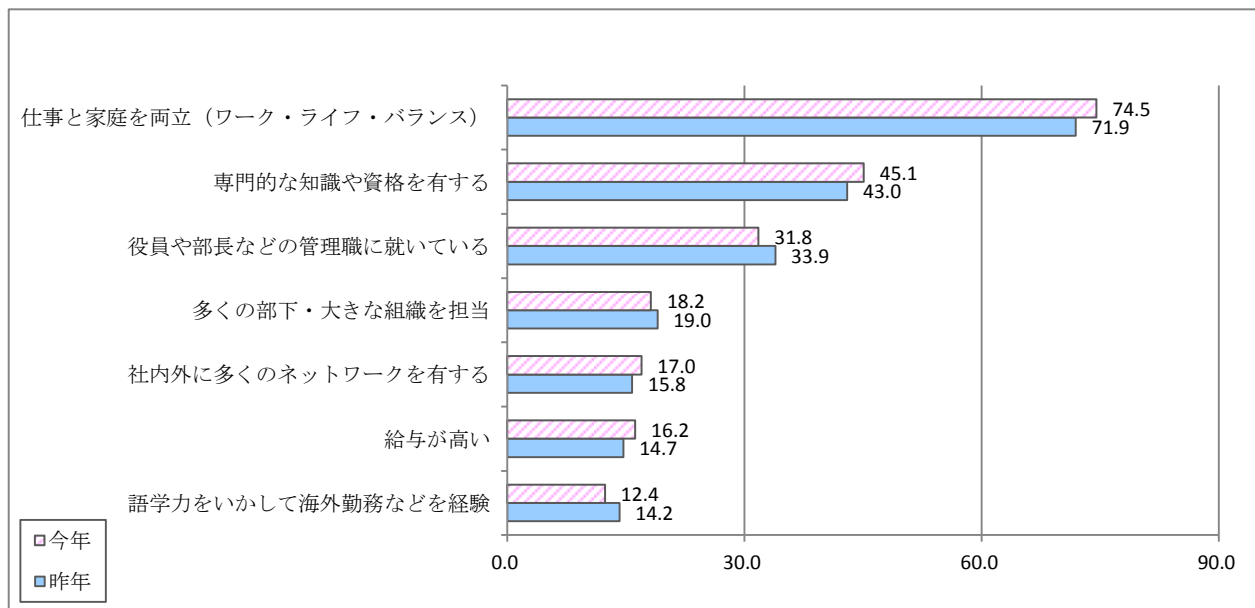


質問6 活躍している女性のイメージは？ (回答者数：17,934名)

○昨年同様、「仕事と家庭を両立（ワーク・ライフ・バランス）」という方が7割を超え、圧倒的に多い。
次いで、「専門的な知識や資格を有する」「役員や部長などの管理職に就いている」が続く。

■全年代の回答 ※複数回答可

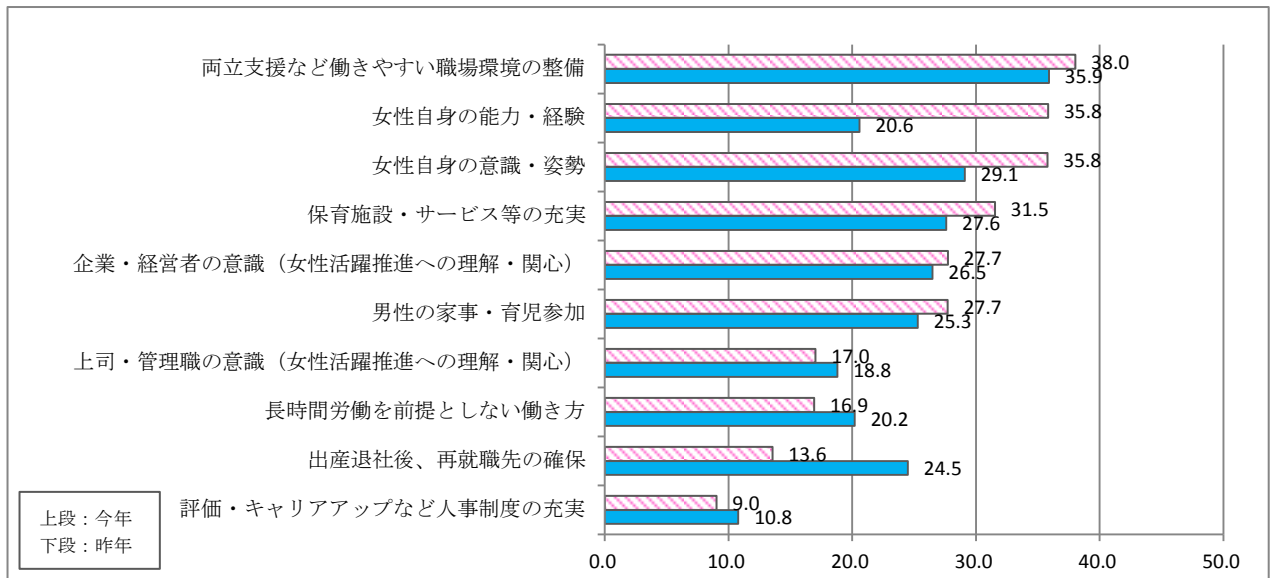
[%]



質問7 女性が活躍するために必要な要素は？（回答者数：17,934名）

○昨年度と同様、「両立支援など働きやすい職場環境の整備」と回答された方が最も多い。
次いで、「女性自身の能力・経験」「女性自身の意識・姿勢」が昨年より大きく増加している。

■全年代の回答 ※複数回答可



<ニッセイ基礎研究所 松浦民恵 主任研究員のコメント>

「女性活躍推進」が進んでいる企業のイメージとして、「出産・育児後も働き続ける女性が多い」という仕事と育児の両立支援に関する項目と、「評価・給与・キャリアアップなどの諸制度が男女均等」という均等推進に関する項目が、上位2位に並んでいるのは、女性活躍推進のためには両立支援と均等推進を連動させることが重要だという、既存研究の成果とも符合する結果です。

活躍している女性のイメージとしては、「仕事と家庭を両立（ワーク・ライフ・バランス）」がトップにあげられています。ただし、長時間労働を前提とした企業での働き方や、家庭での伝統的な男女役割分業の現状が十分に変わらなければ、仕事と家庭を両立しながら女性が企業で活躍するには、実際には相当の困難をとまうでしょう。

女性が活躍するために必要な要素として、「女性自身の能力・経験」「女性自身の意識・姿勢」をあげる割合が、昨年より各 15.2、6.7 ポイント増加しています。管理職に登用しようとしても、「能力・経験」「意識・姿勢」の面で候補となる女性が少ないという多くの企業の声を映し出した結果のようにみえます。別の見方をすれば、社会や企業の中で、仕事の能力を磨き、経験を積み、仕事に対する意識を向上させ、姿勢を前向きにすることに対して、これまで女性達が、必ずしも十分に期待されず、支援も受けてこられなかった結果だともいえるでしょう。

<「女性」で「正規雇用」の方への質問>

質問8 将来、管理職への登用を目指したいと思いますか？（回答者数：2,954名）

※「既に管理職」の方を除く

○将来、管理職への登用を目指したいと「思う」割合は26.6%に止まっている。
○ただし、目指したいと「思う」割合は年齢が若くなるほど高い傾向にある。

■女性・年代別の回答(正規雇用)

[%]

	そう思う	やや思う	あまりそう 思わない	そう 思わない	どちらとも 言えない
～20代	12.9	18.5	22.8	25.0	20.8
30代	10.6	17.1	25.4	27.8	19.2
40代	11.6	14.8	25.4	26.3	21.9
50代	9.7	13.7	28.0	24.9	23.7
60代以上	14.6	11.5	28.1	21.9	24.0
女性計	11.2	15.4	25.8	26.0	21.6

26.6%
51.8%

<「女性」で「正規雇用」の方への質問>

質問9 キャリアアップに向けて、自己啓発に取り組んでいますか？（回答者数：3,091名）

○キャリアアップに向けて、自己啓発に「取り組んでいる」割合は46.7%、「取り組んでいない」割合は53.3%と、自己啓発に取り組んでいない方のほうが若干多い。

■女性・年代別の回答(正規雇用)

[%]

	取り組んでいる	取り組んでいない
～20代	44.2	55.8
30代	43.9	56.1
40代	46.8	53.2
50代	51.2	48.8
60代以上	41.1	58.9
女性計	46.7	53.3

<ニッセイ基礎研究所 松浦民恵 主任研究員のコメント>

管理職への登用を目指したいと「思う」女性は4人に1人とどまり、「思わない」女性が過半数を占めています。この要因として、最も大きいのは、家庭における男女役割分業の現状でしょう。内閣府『平成25年版男女共同参画白書』によると、就学前の子を持つ共働き男女の1日の家事関連時間は、男性が1時間7分、女性は5時間56分となっています（総務省「社会生活基本調査」2011年）。

管理職への登用を目指したいと「思う」割合を年代別にみると、年齢が若くなるほど、若干ではありますが、高くなっています。この結果には、年齢が高くなるほど、管理職への登用の可能性が相対的に高い正規雇用の割合が低下する傾向にあることが関係していると考えられます。

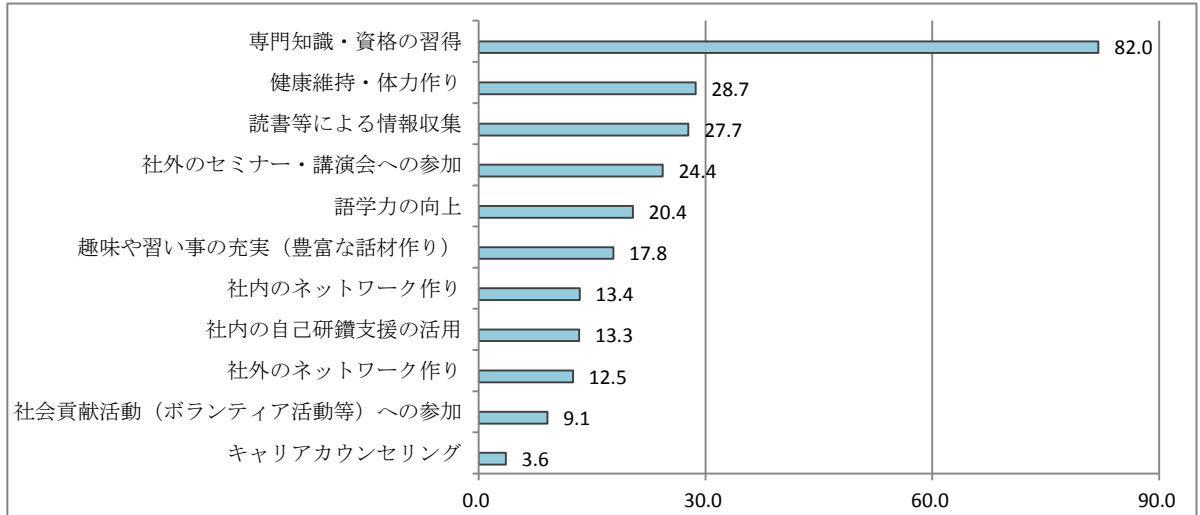
正規雇用の女性が、キャリアアップに向けて、自己啓発に「取り組んでいる」割合は半数を切っています。ただ、こうした傾向は女性だけではなく、別の調査（厚生労働省「平成27年度能力開発基本調査」）で正規雇用について、前年度に自己啓発を行った者の割合をみると、男性が44.9%、女性が38.0%と、いずれも半数を切っています。むしろ女性については、今回の調査のほうが「取り組んでいる」割合が高くなっています。

<質問9で、自己啓発に「取組んでいる」方への質問>

質問10 自己啓発としてどんな取組を行っていますか？（回答者数：1,444名）

○自己啓発の取組は、「専門知識・資格の習得」が圧倒的に多い。
次いで「健康維持・体力作り」「読書等による情報収集」が続いた。

■女性・全年代の回答(自己啓発に取り組んでいる方) ※複数回答可



<女性で「非正規雇用」の方への質問>

質問11 正規雇用への転換（転職）を望んでいますか？（回答者数：2,221名）

○非正規雇用の方のうち約半数が「非正規雇用のままでよい」と考えているが、年齢が高くなるほど「非正規のままでよい」と考えている割合が高く、20代以下では約8割が「正規雇用への転換（転職）」を希望している。
○なお、20代以下の35.0%は「正規雇用への転換（転職）を望んでいるが、転換（転職）先が見つからない」と回答している。

■女性・年代別の回答(非正規雇用)

[%]

	現在望んでおり、近々転換（転職）予定	現在望んでいるが、転換（転職）先が見つからない	現在望んでいないが、将来的に転換（転職）したい	非正規のままでよい
～20代	12.8	35.0	34.2	17.9
30代	10.7	17.6	39.6	32.1
40代	4.6	22.1	27.8	45.5
50代	2.1	22.8	12.3	62.8
60代以上	1.1	12.6	4.0	82.2
女性計	5.0	21.6	23.2	50.3

<ニッセイ基礎研究所 松浦民恵 主任研究員のコメント>

自己啓発に取り組んでいる正規雇用の女性のうち、8割以上が取組内容として「専門知識・資格の習得」をあげていることは注目されます。

非正規雇用の女性については、約半数が「非正規のままでよい」と回答していますが、この割合は年齢が若くなるほど低下し、20代までではむしろ「現在望んでいるが、転換（転職）先が見つからない」が35.0%と最も高くなっています。「転換先が見つからない」事情はさまざまだと思いますが、多くの企業で人材の確保が難しくなっている昨今、正規雇用への転換の可能性は相対的に高まってきているはずですが、もしかすると、求人と求職のマッチングがうまくいかず、「転換先が見つからない」状況に陥っている可能性も考えられます。

質問 1 2 結婚後・出産後の女性の働き方として、どれが良いと思いますか？（回答者数：17,934名）

○女性の働き方として、「結婚後」は、「仕事も家庭も重視」が64.4%と最も多く、次いで「家庭重視」が26.8%となっている。

一方で、「出産後」は、「結婚後」と比較して、「仕事も家庭も重視」が大幅に減少し48.8%、「家庭重視」が大幅に増加し41.9%となっている。

■男女・年代別の回答

	＜結婚後＞				＜出産後＞				
	専業主婦	家庭重視	仕事重視	仕事も家庭も重視	専業主婦	家庭重視	仕事重視	仕事も家庭も重視	
男性計	5.3	28.7	4.3	61.7	8.3	42.8	1.7	47.3	
～20代	8.4	29.3	5.8	56.5	11.1	42.5	2.9	43.5	
30代	6.0	29.7	6.7	57.6	9.6	44.9	2.3	43.2	
40代	4.9	30.5	4.8	59.9	8.6	45.0	1.7	44.7	
50代	5.1	27.2	3.0	64.7	7.8	41.1	1.4	49.6	
60代以上	5.1	26.9	2.8	65.2	6.6	39.2	1.1	53.0	
女性計	4.3	24.8	3.5	67.4	7.3	41.0	1.3	50.4	
～20代	4.6	30.3	3.7	61.4	10.3	45.3	1.5	43.0	
30代	5.1	26.7	4.9	63.3	8.0	46.0	1.2	44.8	
40代	4.0	26.2	3.7	66.1	7.4	43.6	1.2	47.9	
50代	3.4	22.7	2.7	71.2	6.2	38.0	1.3	54.6	
60代以上	5.7	20.4	2.7	71.2	7.1	32.5	1.4	58.9	
総計	4.8	26.8	3.9	64.4	7.8	41.9	1.5	48.8	
					(対「結婚後」) ⇒	+3.0	+15.1	-2.4	-15.7

＜ニッセイ基礎研究所 松浦民恵 主任研究員のコメント＞

望ましい働き方として、結婚後と出産後を比較すると、出産後は結婚後よりも、「家庭重視」が15.1ポイント増加し、「仕事も家庭も重視」が15.7ポイント低下しています。

女性の半数弱は出産後も「仕事も家庭も重視」と回答し、両方諦めないこと（両方重視）を望んでいるようです。一方で、職場等で子育てしながら働いている女性の疲弊した姿等、両立が大変な現実を見聞きするためか、出産後の両立は難しいと考える女性も少なくないようです。

男性の意識をみても、結婚後と出産後で、女性と同じような傾向がみられます。男性についても、結婚後はともかく、出産後は、女性に対して家庭重視を期待する傾向があるようです。

別の調査（厚生労働省「第10回成年者縦断調査」（2011年）、内閣府『平成25年版男女共同参画白書』）で、結婚前に就業していた女性を100%として、その後の実際の就業継続率をみると、結婚後には71.4%、出産後には32.8%まで低下しています。

質問 1 3 最も活躍している女性の著名人は誰ですか？（回答者数：17,934名）

■全年代の回答(上位5位)

順位	氏名	回答数
第1位	ヒラリー・クリントン さん	926名
第2位	黒柳 徹子 さん	772名
第3位	綾瀬 はるか さん	471名
第4位	緒方 貞子 さん	438名
第5位	澤 穂希 さん	312名

(昨年)

順位	氏名	回答数
第1位	黒柳 徹子 さん	429名
第2位	蓮舫 さん	195名
第3位	緒方 貞子 さん	179名
第4位	アンゲラ・メルケル さん	168名
第5位	ヒラリー・クリントン さん	164名

以上